

# テーマを中心とした学習指導案に関する一考察 (2)

— ペテルセン W. H. Peterßen の WPM モデルを中心として —

深澤広明・中野和光・高木 啓  
吉田茂孝・吉田成章・渡邊眞依子

(2006年10月5日受理)

A Consideration on the theme-centered lesson plan  
— Centering upon W. H. Peterßen's WPM model —

Hiroaki Fukazawa, Kazumitsu Nakano, Akira Takaki,  
Shigetaka Yoshida, Nariakira Yoshida, and Maiko Watanabe

This paper aimed to explore a new type lesson plan connecting learning objectives to long-term educational aims. To this aim, we examined the W. H. Peterßen's WPM model which is close to our idea. At first, we introduce the concept and theory of WPM model. Next, we introduce the examples of lesson plan, the examples of Grundschule and Hauptschule in another paper, and Realschule and Gymnasium in this paper. After these examination, we argued the educational meaning of WPM model.

Key words: Lesson Plan, WPM model, learning objective, educational aim

キーワード：学習指導案, WPM モデル, 学習目標, 教育目的

## I はじめに

別稿において、ペテルセンのWPMモデルにもとづく学習指導案の全体の構想と理論的意味、及び、グルント・シューレとハウプト・シューレの学習指導案の具体例の検討を行った。本稿においては、リアル・シューレとギムナジウムの学習指導案の具体例について検討してみたい。その上で、ペテルセンのWPMモデルの教育実践に対する意味を検討してみたい。

## II 具体的な学習指導案 (3) — レアルシューレ／音楽： 「トロンボーン」

### 1 授業の基礎情報

期 日：2002年7月10日(水)

2002年7月12日(金)

教 師：Rupp, Caroline

(企画チーム) Ortwein, Maria Anna

Beck, Andrea

Sontheim, Regina

学 校：Georg-Mustermann-Realschule, M. 市

学 級：6年a組

教 科：音楽

テ ー マ：トロンボーン－金管楽器

学習目標：金管楽器の代表としてのトロンボーンを知る

### 2 授業の構想

#### (1) テーマについて

楽器の時間と関連したこの授業では、金管楽器を取り上げ、特にその代表としてトロンボーンを扱う。トロンボーンという楽器を学ぶことで、子どもが楽器に興味を持つこと、楽器をみんなで演奏するときには音楽的な条件以上に社会的能力を必要とすること、現代の楽器を理解するだけでなくその歴史的展開も知ること、などが意図されている。

## (2) 状況と条件について

授業が計画されたのは、一般的な家庭の子どもたちが通う、リアルシューレの第六学年である。男子10名・女子15名の25名の学級で、学校の音楽設備はかなり整っている。トロンボーンを習っている生徒が一人いる。その他の子どもも、トロンボーンという楽器のことは知っていて、第五学年時に、それぞれの楽器は特定の仲間に分類されることも学習している。

トロンボーンという教材に関しては、次の四点が重視される。まず、音楽の流行は時代とともに変化しており、その流行によって楽器の種類や形態も変化しているということ。第二に、トロンボーンは古く、またその発展には複雑な歴史があるということ。第三は、トロンボーンの出せる音の特徴は、自然音を出すことができることであり、最後は、トロンボーンはスライドを動かすことによって音階を変えることができるという構造をもっているということ、である。

## (3) 目標について

大きな目標は、「トロンボーンという金管楽器を知る」である。その上で個々の目標が次のように設定される。

- ①課題曲から、独奏楽器のトロンボーンを聞き取る
- ②単語カードを黒板に正しく配置することができる
- ③トロンボーンを虫食いの文章で学習する
- ④現代の楽器を知るだけではなく、楽器の歴史的発展や意義を認識する
- ⑤トロンボーンの部位の名前をいうことができる
- ⑥トロンボーンを音を書くことができる
- ⑦単純な物からトロンボーンを作成することができる
- ⑧トロンボーンを機能方法（スライド）を知る
- ⑨様々な楽器を楽器のグループに分類する
- ⑩自然音を知る
- ⑪聴覚を鍛える
- ⑫範例的なやり方を認識し、転用可能性を認識する
- ⑬音楽的認識能力を敏感にする
- ⑭音楽的体験能力を発展させる
- ⑮音楽を演奏する人を尊敬する
- ⑯様々な社会的形態における作業（グループ作業、個別作業…）を練習する
- ⑰社会的能力をより高める
- ⑱作業成果のプレゼンテーション能力をより高める

⑲自主的に情報を獲得し、それを利用することを学ぶ

⑳自主的に作業することを学ぶ

## (4) 内容について

習得される内容は、次の四点、すなわちトロンボーンの歴史的発展、分類、部位の呼び方、音の発生の基本原理（自然音階）である。

## (5) アレンジメントについて

授業の進行は四つの段階に構造化されている。まず導入の段階では、目標の①・②と関連して、生徒にトロンボーンを演奏してもらい、生徒たちはその演奏と楽器に対するコメントをカードに書いて、黒板に貼る。教師の用意した概念カードから、それぞれ自分が正しいと思うカードを選ぶ。

次の段階では、生徒たちはそれぞれ学習班に分かれて、以下の六つのセクションに従って作業を行う。

※（ ）内は関連する目標

- 1) トロンボーンを歴史 (③)
- 2) ホース式トランペットの作成 (⑦・⑩・⑬・⑭)
- 3) トロンボーンを部位の名称 (④・⑬)
- 4) 課題曲を聴く (⑪・⑭)
- 5) トロンボーンによる高い音の変化 (⑧)
- 6) 金管楽器の仲間 (⑨・⑭)

それぞれが各目標と結びついて設定されている。また、行為能力と関わっては、本からトロンボーンを部位の名称を調べることによって方法的能力を、またここではグループ作業・パートナー作業・個別作業をその目的・内容に合わせて行うことによって社会的能力をそれぞれ育成すること (⑯) が意図されている。

第三の段階では、セクション毎の成果を交流し、黒板上にその成果をまとめていくこと (⑰・⑱)、そしてセクション2で出てくる自然音とスライドとの関係に関する理解を深める (⑩) ために、教師と子どもとの会話が計画されている。

最後に、黒板にまとめたそれぞれの成果からポスターを作成する。この作業を通して、子どもは自分の作業の成果を認識し、自分の作業に自信をもつことができるようになる。さらに、ポスターを教室にはりだすことによって、学級の雰囲気づくりに役立てることも意図されている。

用いられる道具・教材は、指導計画の「メディア」の通りである。

### 3 指導計画

時間	教授—学習活動	作業形態・社会的形態	メディア	留意点
10分	<p><u>準備:</u> 教師：黒板に「トロンボーン」という概念を書き、様々な（適切なもの、不適切なもの）概念カードや絵が描かれたカードを黒板にはる 黒板を閉じる その上、トロンボーンを黒板の近くにおく</p> <p><u>導入:</u> 生徒は少しトロンボーンの記事曲を聴き、楽器を観察する 最初の自発的な生徒の意見に続いて、楽器についての会話（例えば、「あなたはこの楽器を知っていましたか？誰がトロンボーンを演奏していましたか？」）がなされる；クラスの一人のトロンボーン奏者が楽器を持ってきた場合には、他の人に彼に質問をしてもらう（例えば、「あなたはどれくらいやってるの？楽器を勉強するのは難しいの？それはいくらなの？」）</p>	授業対話 生徒は黒板の前に半円になって座る	黒板、絵図面、概念カード、トロンボーン、課題曲を聴くことのできる録音媒体	<p>学級の一人の生徒はトロンボーンを演奏できる。彼が吹く場合には、彼には自分の楽器を授業に持ってきてもらい、テープでの課題曲の代わりに前で何か弾いてもらう →生の音楽は録音テープの音楽よりもわくわくする 社会的能力の促進：生徒は同級生から何かを学習する（教師は役割を弱める）：演奏者が失敗しても、同級生は笑わない… より多くの感覚を用いた学習（楽器を見て聴く）</p>
10分	<p>生徒：その自発的な意見から、生徒は聴いたことや楽器についてのコメントをカードに書く（例えば、「トロンボーンが鳴って…」） 黒板を開く 生徒は自分のカードを「トロンボーン」という概念のそばに並べる 生徒はさらに教師によって用意された、自分の意見に合うカードを貼っていく（左：不適切なもの、中央：適切なもの、右：問題なもの） <u>きりかえ (Überleitung)</u> 教師：自分の予想が正しいかどうかを生徒に同じように調べてもらう</p>	授業対話	黒板、カード（自分のカードと教師によって用意されたカード）	教師は、生徒によって選び出されたカードにさしあたりコメントせず見しておく
40分	<p><u>学習班:</u> 生徒：小グループにおいてトロンボーンに関する様々な学習班のセッションに目を通し、自分の予想が正しいかどうかを吟味する。そこで生じた問いを、生徒は音楽室の側面の黒板に書いておく</p>	円座はやめる。セッションに応じた学習班になる：グループ作業、パートナー作業、個別作業	それぞれのセッションの課題カード 様々な学習材料：本、作業用紙、ホース、じょうご、マ	<p>生徒は自主的にセッションの個々の課題を習得する →行為能力の促進： →方法的能力：私はいかにしてなにかを自分で習得することができるのか？ →実験（セッション2）、本と事典による作業（セッション1） →自己コントロールの可能性</p>

			<p>ウスピース 、録音媒体 +Triory- Spiel</p>	<p>→教師は役割を弱め、生徒が答えづ らそうなどきだけ助けてやるのみ である 社会的能力の促進：チームでの作業</p>
20分	<p><u>学習班同士の協議</u> それぞれの学習班は一つのセクションを紹介する 他の班はその成果を補う。作業用紙は報告する班によって シートに埋められる 生徒：吟味し、黒板の自分の配列を訂正する。側面の黒板 にある問いは全体会議において議論され、解決される 教師：セクション2との関連において、教師は自然音とい う現象を詳しく検討する 生徒：概してホース式トランペットではほとんど音を出す ことができないので、»Alle meine Entchen«を演奏す ることはできないことを確認する→それは自然音 自然音をシートで示す 生徒は、個々の音の間には大きな隔りがあることを確認 する 教師：このすきまはいかに埋めることができるの？ 生徒：柱の長さを変える 教師：我々はいかにトロンボーンによってそれをすること ができるの？いかにトロンボーンをすぐに長くしたり、ま た短くしたりできるの？ 生徒：トロンボーンのスライド</p>	<p>生徒は自分 の場所に座 る、個々の 班の提案、授 業対話</p>	<p>作業用紙；シ ート、黒板、 単語カード 、絵図面、ホ ース式トラ ンペット、 トロンボ ーン</p>	<p>社会的能力の促進：個々の班の成果の 尊重、共同での議論、そして成果の統 一 教師は、生徒が問いの解答を明らかに することができない場合に、助ける のみである</p>
5・10分	<p>教師：別の課題曲を紹介する：ジャズやオーケストラやソ ロでのトロンボーン →楽器の多様性 ポスター作成の予備協議：課題：材料集め</p>		<p>さまざまな 録音媒体</p>	<p>聴覚的・敏感な手がかり：音楽の授業 では音楽を聴くことが中心的な要素 である→楽器を聴く経験！</p>
45分	<p><u>授業単元のまとめ</u> 生徒：パネル絵から大きなポスターを作成し、そこではこ れまでの授業の成果や集められた視覚教材などがはっきり と示されている ポスターは教室にはりだされる</p>	<p>グループ作 業</p>	<p>ポスター、単 語カード、 視覚教材…</p>	<p>生徒は最後に自分の作業の成果を手 にする→生産的活動はすばらしく みえる→自分の作業への自信</p>
	<p><u>展望：</u> 例えば、Dixie-Bandが演奏する行事を訪ねる、あるいは ジャズバンドやトロンボーン奏者といったビデオ… そして／あるいは：「研究課題」：生徒は自宅で自分のCD の中や、あるいは両親の古いレコードの中に、どこかにト ロンボーンが存在していないかを探す→もってくる！</p>			<p>反省の手がかり</p>

(吉田成章)

### Ⅲ 具体的な学習指導案 (4) — ギムナジウム／英語： 「サム・シェパード： 『フル・フォア・ラブ』」

#### 1 授業の基礎情報

教師：Andrea Gall

クラス担任：Fr. Zimmer

学校：Konstanzにある Alexander-von-Humboldt  
Gymnasium

クラス：第13学年

生徒：20名：女子6名，男子14名

(うち5名がイギリスかアメリカ合衆国の  
長期滞在者)

時間：水曜日第3，4時限

木曜日第5時限

教科：英語科 LK (達成コース)

テーマ：サム・シェパードの「フル・フォア・ラ  
ブ」における性役割問題

目標：ジェンダー概念の認識と「フル・フォ  
ア・ラブ」におけるエディとメイの問題の  
ある性役割関係への応用

#### 2 授業の構想

##### (1) テーマについて

「サム・シェパードの『フル・フォア・ラブ』における性役割問題」というテーマは、州の教育課題における「われわれの社会における性役割の発展の変化と男女同権化の実現」にあたる。選択されたアメリカの文献を英語科のなかで教科的に扱うと同時に、このテーマを考察し熟考させることで、生活のなかでの性の問題やジェンダーの問題を克服するという、今日的にも将来的にも意味のあることを援助するテーマとなっている。

「フル・フォア・ラブ」というアメリカの戯曲では、テーマである性の所属とそれと結びついた役割結合の問題が強調されている。すなわち、今日における保守的な父権制社会像が破綻しているさまと、そうしたステレオタイプの世界観に対する抵抗が示されている。登場人物のメイとエディの性役割について議論するなかで、テキストの観念的な関連と内的構造を教科的に洞察すること、そして、文学のありよう(社会的な現実の鏡像にも対立像にもなりうること)にいたることも意図されている。

##### (2) 状況と条件について

授業はギムナジウム後期中等教育段階第13学年の英語達成コースで行われる。参加する生徒は20名、うち

5名の生徒が英語圏での海外経験を持っている。そのため、特に言語的能力、外国の文化的な状況に関する知識の点で、生徒間に大きな差異がある。彼らの社会的な出自、学習へのモチベーション、認識状況も非常に異なっている。

生徒たちのアメリカ文化圏に関する予備知識は、すでに扱われているアメリカンドリームに関する知識である。海外経験のない生徒たちのために、学校外のメディアからテーマに関する知識をもたらす時間が準備される。

授業は、この戯曲(「フル・フォア・ラブ」)の自主的な読書を前提とする。授業の2週間前にこの読み物が配られ、ちょっとした宿題も出される。

生徒たちは、グループ作業・パートナー作業の経験、LKの結果の保証として自分たちの結果を記録する経験はある。また、抽象的な概念を、自分たちの意味で理解したり自分たちの現実に置き換えることはできる。

生徒たちは、社会における役割／立場／状況を見出すことの意義が増してくる年齢にある。すでに日常において、性所属や役割理解に関する具体的な問題に立ち向かっている。

##### (3) 目標について

上述のテーマや生徒たちの状況をふまえ、目標は大きく二つが設定される。

①教科的な知識を越えて、とりわけセックス(sex)とジェンダー(gender)の概念を認識し区別することを学習する。<認知的な学習>

②生徒たち自身の性・役割問題に意識的に取り組もうとすることを学習する。<情緒的な学習>

すなわち、戯曲を読むなかで、教科的な知識だけでなく、テーマである社会のなかでの性役割を理解することのために必要な、セックスやジェンダーといった概念を認識することがめざされる。そして、社会的な役割や立場について考えるべき年齢にある生徒たちが、生活のなかでの性役割問題にも目を向けることができるようになることも目標としている。

この2つの目標に加え、詳細の目標も立てられる。ここでの詳細の目標は、テーマである性役割問題と直接関わる能力ではない。しかし、「フル・フォア・ラブ」という英語の戯曲を用いた議論のなかでこのテーマに迫るためには必要となるであろう、教科的な能力(言語的な能力、とりわけ英語の語彙と文法の拡大、英語の戯曲を解釈し分析する能力)、議論やチーム作業へ参加しその貢献を提示する能力、記録を適切かつ正確に言葉で言い表す技能、ビデオでのプレゼンテーションを理解し解釈する能力が目標となっている。

**(4) 内容について**

内容として想起される単語は、「セックスとジェンダー」「性役割」「ステレオタイプ」「演技；登場人物；人物像」「世襲的な遺産」である。「フル・フォア・ラブ」という作品の内容は、これらの諸概念と比較して、エディ、メイ、老人という三人の登場人物について説明することで明らかにされている。

＜登場人物の解釈＞

エディは、父親と同様に、異母兄妹のメイと伯爵夫人という二人の女性との三角関係にあり、それが彼の人生の夢でもある。エディは大きさに「男らしさ」を見せつける。彼にとって「男 (man)」とは、自称カウボーイの美徳に関する常套句の寄せ集めであり、たとえば、女性に対する男性の優位、女性に勝る男性の決定、女性を男性が操作することなどを意味する。彼に特徴的なことは、決して実現されない夢によって自分の世界を作り出していることである。

メイも、自分の親と同様の生き方をする。一つの場所にとどまって生活することはない。メイはエディから離れようとするが、エディが去ろうとすると彼にすがりつく。彼女は、世襲的に受け継がれている役割理解を受け入れるという義務に対し抵抗する。すなわち、彼女は、家庭の歴史について、自分の父親やエディが男の弁解をしようとするのを見抜き拒絶する。しかし、メイはその流れを引き受けるほかなく、結局、受動的なだけの役割から解放されることはない。

老人は、実はエディとメイの父親である。彼は独自の世界のなかで、つまり現実のなかではなく、ファンタジーでつくられた空間、精神のなかで生きている。彼は自分の子どもたちの関係についてコメントすることで、依然として彼らの振舞いを

規定する。老人は非常に保守的で、女性に対する振舞いは時代錯誤的で、過剰な男性意識をもっている。老人は二人の女性と異なる場所で生活することを望み、そのせいでエディとメイは兄妹としてではなく、男と女として出会った。老人が実際の人生を明らかに説明できないため、彼の子どもたちも自分の人生を自ら手に入れるのではなく、生き方の範が示されたもの、つまり「枠組み」のなかにとどまったままである。

**(5) アレンジメントについて**

上述の目標に向け、生徒たちに自主的な学習段階を進行させ、同時に、一般と特殊を結びつけるような、授業の進行が構想されている。

- ①教師がイニシアティブをとり、学習の枠組みや動機をあらかじめ設定する（セックスとジェンダーの概念を導入、定義し、境界を定める）。＜イニシアティブ段階＞
- ②教師と生徒の相互作用のなかで、日常の事例にもとづく抽象的な概念的知識を、セックスとジェンダーという概念に転用し、応用を練習し、具体化する。＜情報化段階＞
- ③グループごとに、登場人物のいずれか一人に関する作業シート（特徴、他の人物との関係、行動や立場の確認とその意味などを問う）に取り組む。あらかじめ設定された問題にもとづいて、グループ内でテキストの重要な一節を自分たちで選択する。個々の問題領域も生徒たちが独自に区分、処理し、プレゼンテーションのやり方も決定する。＜計画・実行段階＞
- ④全体会議のなかで批判する（場合によっては、教師が進行役）。＜評価段階＞
- ⑤「フル・フォア・ラブ」の映画のひとこまを提示することで、これまでに得られた結果をヴィジュアル化し、生徒の世界と結合させる。＜終末段階＞

**3 指導計画**

1・2時間目

時間	教師・生徒の活動		留意点
5分	教師によるコースのはじめのあいさつ この時間のテーマの導入を行う	一斉授業	導入
10分	教師からセックスとジェンダーの概念が導入される	一斉授業 定義の発表	知識の伝達
10分	社会におけるジェンダーの役割についての適切な事例を共同探求する	気楽な授業対話 生徒による事例を黒板に記録する	獲得された知の事例



3分	5人ごとに生徒をグループ分けする；作業用紙を配布し「フル・フォア・ラブ」へ移行する		グループ作業への導入
17分	生徒たちは作業用紙を処理する	グループ作業，グループによる結果をシートに記録する	獲得された知の自主的な応用
15分	継続：作業用紙の処理	グループ作業	
28分	作業結果の評価；教師は観察者としてのみ行動し，必要ならば介入する	結果の投影；開かれた授業対話／討議	結果のヴィジュアル化とプレゼンテーション→シートへのダイナミックな継続を可能にする
2分	記録／シートの回収と生徒の終わりのあいさつ		

### 3時間目

時間	教師・生徒の活動		留意点
3分	はじめのあいさつ	教師中心の行為	コースの結果の保証
2分	個々のグループの記録のコピーを配布する		
15 - 20分	グループ作業の評価の続きを行う	開かれた授業対話／討議	
残りの時間	「フル・フォア・ラブ」の映画のはじめ	ビデオのプレゼンテーション	結果のヴィジュアル化→体験したことの結合，自主的な作業，絵や音

(渡邊真依子)

## IV WPM モデルの意味

ペテルセンの WPM モデルにもとづく授業は，短期的な学習目標だけではなく，長期的な人格促進的な目標として「行為能力」の形成を目指していることに特徴がある。状況に対応し，問題を自主的独自的に解決する「行為能力」を形成するために，授業は自己主導的な学習として構成される。テーマにもとづいた自己主導的な学習自体は，わが国でも珍しくはないが，短期的な学習目標だけではなく，長期的な人格促進的な目標を追求するように授業を構成するという視点とその構想は，今日，意味があるのではないだろうか。

## 【引用文献】

- 1) Wilhelm H. Peterßen: *Lehreraufgabe Unterrichtsplanung*, Oldenbourg Schulbuchverlag, 2003, Ss. 109-126.
- 2) Ebd., Ss. 127-134.

本論文は，日本学校教育学会第21回大会（2006年8月5日 広島大学）自由研究発表のレジメにもとづいたものである。

